

## 文化財保存活用地域計画（案）に対するパブリックコメント結果について

公募期間：平成 31 年 3 月 6 日から平成 31 年 3 月 25 日まで

提出者数：3 名（提出方法：メール 2 名、持参 0 名、FAX 1 名）

### 【第 8 章、文化遺産の保存・活用に関する措置に関する意見】

8 章立てを 7 章立てに再構成していますので、意見にある 8 章は 7 章と読み替えて下さい。

	ご意見	市の考え方
1	<p>P 159 「6.文化遺産を活かした観光の取り組み (2) 広域周遊ルートの策定」について</p> <p>ルート 鉱山の歴史について、江戸時代の天領としては鳥根県邑南町の久喜・大林銀山も関わりがあるといえることから、加筆願いたい。</p>	久喜・大林銀山をルートに加筆する。
2	<p>P 160 「7.支援団体など民間と連携した取り組み」について</p> <p>具体的な団体名は 2 者のみであるが、その他の団体もそれぞれが頑張っている。各団体名を載せるのは難しいと思われるので、歴文構想に載っており、今後も歴史を活かしたまちづくりには欠かせない団体が所属している「益田市の歴史文化の未来を考えるネットワーク会議」を入れた文言を以下の形で書き加えて頂きたい。</p> <p>『その他、「益田市の歴史文化の未来を考えるネットワーク会議」所属団体とも適宜協働し歴史を活かしたまちづくりに向けた取り組みを実施していくこととします。』</p>	加筆修正する。
3	<p>「歴史文化基本構想がマスタープランで、本計画はアクション計画の役割を担う」と位置付けられているが、「観光事業」については実線の「予定」はなく点線の「見込み」ばかりで、実施の見込みが非常に薄いとしか映らない。</p> <p>「サイクリングによる歴史スポットの周遊コースと拠点の設置」についても「見込み」となっているが、医光寺周辺から七尾城跡、三宅御土居跡、中須東原遺跡などを結ぶ益田川沿線ロードはすぐにでもコースづく</p>	<p>個別の遺跡名は挙げていないが、「第 6 章 歴史文化保存活用区域の設定と内容 (1) 中世益田歴史文化保存活用区域」において、益田川を基軸とした周遊コースを設定・活用することを記載しています。</p> <p>具体的な取り組みにあたっては、関係機関や団体との調整が必要となることから、意見は今後の参考とします。</p>

<p>りが可能と思います。かつて国土交通省も益田川の土手を「歴史散策ロード」として提案し、市議会でも取り上げられたことがあります。</p> <p>国史跡が集中しているこの益田川周辺整備に早急に手を付けるべきであり、P160のサイクリングの項に具体的な取り組みとして取り上げてもらいたい。</p>	
---	--

【その他】

	ご意見	市の考え方
4	<p>秦佐八郎博士が昭和初期に都茂村（現美都町都茂）に提供した図書館について、文化財として取り上げられていないのが気になります。昭和初期の建物として登録文化財にもなりうる価値があるうえ、秦博士の郷土の子どもたちに対する熱い思いを継承していくうえでも大切な建物です。「鉱山とまち並み歴史文化保存活用区域」の中で取り上げるべきです。</p>	<p>旧都茂村図書館（旧秦博士記念図書館）は、総合的把握調査を基にした文化遺産リストに記載済みであり、登録文化財の候補物件として事前調査も行ってきている建物として承知しています。</p> <p>活用にあたっては管理者との調整が必要ですが、「第6章歴史文化保存活用区域の設定と内容」あるいは「第7章文化遺産の保存・活用の体制と措置」での記載を検討します。</p>
5	<p>本計画案は、古代から中世、近世、近代と益田市の歴史の厚みをあらためて実感させるものでした。それぞれの文化財を一つの糸でつながった数珠玉のように関連させながら、広く市民に分かりやすく、伝えていく地道な取り組みが大切だと思います。</p> <p>「歴史を活かしたまちづくり」は確実に前に進んでいると感じています。学校教育や社会教育の中でも、益田の歴史に触れる機会が増えたことも大きな成果の一つだと思います。一人でも多くの大人が誇りと関心を持って、家庭の中で話題にすることが、子どもの関心を育てる早道のような気がします。</p> <p>計画案は具体的で、より分かりやすく、将来に希望が持てるものを感じました。あとは、地元内外のネットワーク（とくに出身者の協力）をますます大切に育ててほしいと思います。</p>	<p>引き続き調査研究を進めて地域の歴史文化の把握に努め、歴史文化の継承に向けた取り組みが一層促進されるよう、その価値や魅力について、情報発信・普及啓発に努めることとしています。</p>